

景観フォーラム

巻頭言

陽光の中に若葉が芽吹き、日本各地が鮮やかな色彩に包まれる新年度を迎えました。会員の皆様におかれましては、日頃より当法人の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、長年にわたり本フォーラムを牽引してこられた斉藤前理事長の後を引き継ぎ、理事長に就任いたしました。まずは、並々ならぬ情熱と深い洞察力をもって当法人の礎を築き、景観保護の重要性を社会に問い続けてこられた斉藤さんに、心よりの敬意と感謝を申し上げます。斉藤さんが育ててこられた「景観への眼差し」を大切に受け継ぎ、さらなる発展に尽力する所存です。

私たちは日々、無意識のうちに多くの「景色」を通り過ぎていきます。しかし、その景色を「景観」として捉え直したとき、そこには先人たちの知恵や土地の文脈、そして未来への課題が浮かび上がってきます。

当法人の根幹にあるのは「景観から考えるまちづくり」です。景観を守り、育むということは、単に古いものを残すことではありません。今を生きる私たちが、その土地の「健康状態」を診て、未来へ繋ぐための適切な手入れをすることではないでしょうか。変化の激しい時代だからこそ、私たちは一過性の美しさに惑わされることなく、土地の根底にある価値を見極める「診る目」を養っていかねばなりません。

日本景観フォーラムは、多様なステークホルダーが知恵を出し合う「広場（フォーラム）」であり続けます。会員の皆様お一人おひとりの専門性や地域への想いこそが、私たちの活動の動力源です。皆様と共に街を歩き、語り合い、新たな景観の価値を創造していくプロセスを、何よりも大切にしていまいりたいと考えております。

新体制のもと、日本の美しい景観を次世代へ手渡していくため、誠心誠意努めてまいります。至らぬ点多々あるかと存じますが、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



NPO 法人 日本景観フォーラム理事長 尾崎孝行

<日本景観フォーラム 2026 年度年間スケジュール>

*2026 年度とは 2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日のことです。

2026 年

- 4 月 21 日 (火) **第 1 回景観研究会** 総会・第 1 回理事会 (18:00～20:00) 於：JICA オフィス
- 5 月 17 日 (日) **第 1 回景観まちあるき** 【大宮公園界隈】
- 6 月 23 日 (火) **第 2 回景観研究会** (18:00～20:00) 於：JICA オフィス
- 7 月 26 日 (日) **第 2 回景観まちあるき** 【大山街道】
- 8 月 夏休み
- 9 月 29 日 (火) **第 3 回景観研究会** (18:00～20:00) 於：JICA オフィス
- 10 月 17 日 (土) **第 3 回景観まちあるき** 【鶴見】
- 11 月 24 日 (火) **第 4 回景観研究会** (18:00～20:00) 於：JICA オフィス
- 12 月 17 日 (木) **忘年会** (場所：要検討)

2027 年

- 1 月 23 日 (土) **第 4 回景観まちあるき** 【羽田】
- 2 月 16 日 (火) **第 5 回景観研究会** (18:00～20:00) 於：JICA オフィス
- 3 月 27 日 (土) **第 5 回景観まちあるき** 【草加】

■以上のスケジュールは、ご提案ですので随時皆様のご意見を反映してまいります。

<日本景観フォーラム 2025 年度年間スケジュール実績>

*2025 年度とは 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日のことです。

2025 年

- 4 月 4 日 (火) **第 1 回景観研究会** 総会・第 1 回理事会 (18:00～20:00) 於：JICA オフィス
- 5 月 15 日 (木) **第 1 回景観まちあるき** 【池袋】
- 6 月 24 日 (火) **第 2 回景観研究会** **オンライン** (16:00～18:00)
- 7 月 26 日 (土) **第 2 回景観まちあるき** 【秩父】
- 8 月 夏休み
- 9 月 24 日 (水) **第 3 回景観研究会**
- 10 月 24 日 (金) **第 3 回景観まちあるき** 【石岡】
- 11 月 25 日 (火) **第 4 回景観研究会**
- 12 月 23 日 (火) **忘年会** (イタリアンダイニング DONA 有楽町店)

2026 年

- 1 月 24 日 (土) **第 4 回景観まちあるき** 【鶴見】
- 2 月 24 日 (火) **第 5 回景観研究会**
- 4 月 4 日 (土) **第 5 回景観まちあるき** 【柴又】 ※3 月 21 日 (土) から日程を変更して実施

4月入会の新メンバーご紹介

■中西崇之 さん

43歳 8月生

孫正義と同じ誕生日でソフトバンク勤務です。

海での魚釣り（ショア・オフショア）とマラソン、サウナが趣味です。

私は徳島県徳島市出身で、幼い頃から高校卒業まで身近な徳島市の風景の中で育ってきました。

徳島の景観といえば、まず思い浮かぶのは吉野川のゆったりとした流れと川に囲まれた町のひょうたん島です。

市内のさまざまな場所から広く川を感じることができ、開放的な空の広がりとともに、徳島らしい穏やかな時間が流れているように感じます。(帰省するとタイムスリップのようです)

また、市街地のすぐそばに眉山があることも、徳島の特徴的な景観の一つだと思います。

山の存在が街に安心感を与え、四季の変化を身近に感じさせてくれます。

夕方になると、街の灯りとともに少しずつ表情を変える風景は、とても印象的です。

さらに、徳島の街並みには、自然と生活が程よい距離で共存している良さがあります。

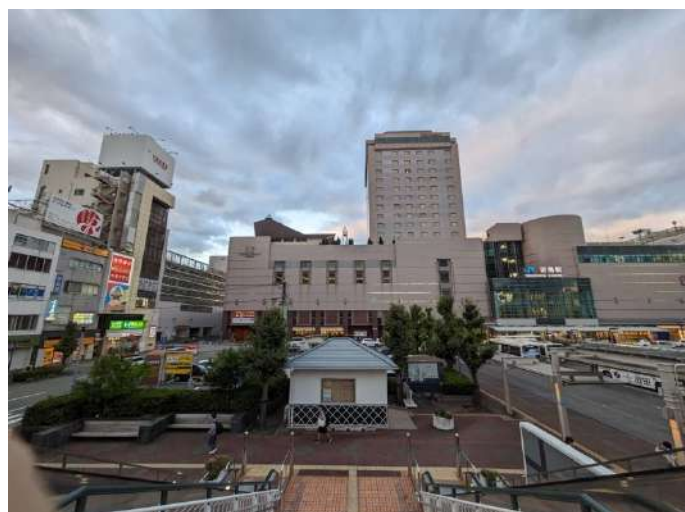
大きな都市のような賑わいとは違い、人の営みや地域の歴史を感じられる穏やかな空気が流れているように思います。

近年は社会環境の変化により人口も減り景観も少しずつ変わっていますが、こうした身近な風景の価値を改めて見つめ直し、次の世代へ伝えていくことが大切だと感じています。

街歩きの活動を通じて、これからも地元徳島の魅力も再発見していきたいと思います。



今持っている徳島っぽい写真をまとめました。



■福沢美空 さん

この度、新規会員入会させて頂き、ご挨拶も兼ねて投稿させていただきます「福沢美空（ふくざわみく）」と申します。

私は鹿児島県の徳之島という離島で生まれ育ちました。

島で育つ中で、豊かな自然や景観を日常のものとして当たり前を受け取りながら生きてきました。けれど今振り返ると、それらは決して“当たり前”にそこにあるもの”ではありませんでした。そこには自然を大切に思い、守ろうとし、よりよい形で次の世代へ手渡そうとする人たちの営みがありました。そして、その思いを軸に人がつながり、コミュニティが広がっていく風景もまた、私にとって大切な原体験となっています。

景観とは、単に目に見える風景ではなく、その土地で生きる人々の価値観や関係性、時間の積み重ねが表れたものだと思っています。だからこそ景観を守るということは、見た目を保存することではなく、その土地らしさや、そこに息づく営みを未来へ繋いでいくことではないかと考えます。

また、景観というテーマは若い世代にとってまだ十分に身近なものになっていないとも感じます。だからこそ私のような若い世代が関心を持ち、関わっていくことに意味があると考えています。

日本景観フォーラムでの学びや出会いを通じて、景観を守ることと、新しい価値を育てることの両方を考えていければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



新春の川崎大師、祈りと彩りの景観を歩く ～参道の賑わいから異国情緒あふれる庭園、そして独自の信仰の場へ～

尾崎孝行

2026年1月31日、澄み渡る冬空の下、当フォーラム主催の「川崎大師まちあるき」を実施しました。古くからの門前町としての風情と、現代の都市景観、さらには国際交流の足跡が混在する、川崎ならではの多層的な魅力を再発見するひとときとなりました。

1. 参道の賑わいと「音」の景観

京急大師線「川崎大師駅」に集合した一行は、まずは大師へと続く参道へ。

ここでは、名物の「とんとこ飴」を切るリズムの良い音が響き、視覚だけでなく聴覚からも門前町の活気を感じることができます。整えられた街並みと、軒を連ねる老舗の看板が織りなす景観は、まさに「参詣のプロローグ」として歩く者の期待感を高めてくれます。

2. 荘厳なる聖域：大本山川崎大師平間寺

大山門をくぐると、一転して広大な聖域が広がります。

大本山川崎大師： 堂々たる大本堂を中心に、線香の煙がたなびく風景は圧巻です。



※川崎大師公式ホームページより (<https://www.kawasakidaishi.com/about/>)

福德稲荷・薬師殿： 境内に静かに佇む「福德稲荷」の赤い鳥居の列、そしてインド風の建築様式を取り入れた「薬師殿」の独特な佇まいは、伝統的な和の景観の中に新鮮なアクセントを加えていました。



3. 異国へのトリップ：瀋秀園（しんしゅうえん）

大師公園の一角にある「瀋秀園」では、これまでの和の景観から一変、中国・瀋陽市との友好の証である本格的な中国庭園（明代建築様式）が姿を現します。

池を囲む楼閣や太湖石の配置は、借景とはまた異なる「閉ざされた空間の中に広がる宇宙」を感じさせ、都市公園の中に突如として現れる異空間の対比を楽しみました。



4. 独自の文化を象徴する金山神社

旅の締めくくりは、若宮八幡宮の境内にある「金山神社」です。

古くから「かなまら様」として親しまれ、現在は国際的にも有名なこの神社は、川崎という土地が持つ「産業の守護」と「多様な性の包摂」という独特の文化的背景を象徴しています。小さな社殿ながら、そこにある造形物や奉納品の一つひとつが、この街の奥深いアイデンティティを雄弁に物語っていました。



むすびに

今回のまちあるきを通じて、川崎大師周辺が単なる「古い門前町」に留まらず、時代や国境を超えた多様な景観要素が、地層のように重なり合って成立していることを改めて実感しました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



<LFJブックレビュー 91>

『持続可能な都市—欧米の試みから何を学ぶか』 福川祐一・矢作弘・岡部明子著

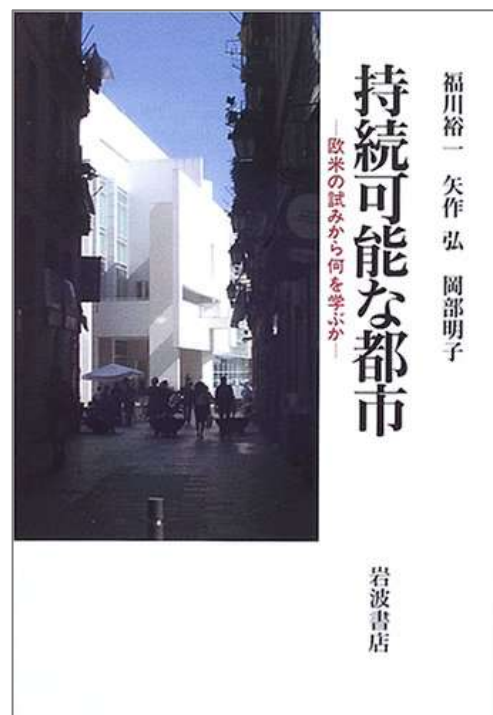
岩波書店刊

齊藤全彦

持続可能な都市とはどういうものであるか？なかなか難しい問いかけである。逆に、持続不可能な都市とはどういうものであるか？この観点の方が考察しやすくなるのではないか。世界の歴史を俯瞰してみると何と多くの大都市が消滅していったことであろうか。自然災害によるところが多くみられるが、何らかの影響で都市に魅力がなくなり人心が去り人々が去っていったというのが現実であったようだ。ところが、日本という小さな島に住んでいると、小さな土地を奪い合う中で暮らしている訳で、街がそして都市そのものが消滅するという経験はあまりない。しかし、天災が多い島である。都市が無くなるという経験は、2011年3月11日の東日本大震災による大津波によって都市があつという間に消滅するという奇怪な情景を目の当たりにした。大自然の力の恐ろしさをまざまざと見せつけられた感があったのである。

さて、この書は三人の研究者による研究論文集である。序章、第一、二章は矢作氏、第三章は岡部氏、第四、五、六章は福川氏によって執筆されている。諸々の考察から、また具体的観点から持続可能な都市というコンセプトを考察する論文集である。先ず、「序章 都市を養育することの意味」として持続可能な都市の為には最初に考えなければならないこととして都市に最も顕著な存在となるであろう“建築”を取り上げる。「建築はそれ自体が社会的行為である」という立場である。即ち、単体としてどんなに優れた建築であるとしても周辺の景観に溶け込む規模と高さでなければならないとし、「焼き畑商業（スクラップ・アンド・ビルト）」を厳しく糾弾し、英国古典派経済学者ジョン・スチュアート・ミルの「定常型社会」を基盤にする“スマート・グロース運動”による都市の養育を提唱する。（smart growth=賢い成長）

第1章グランドデザインを欠落した「都市再生」では、2001年4月から2006年9月までの約5年半続いた小泉内閣が取った経済活性化のみを目的とした建設ラッシュである。高層建築が許可され、都内を中心にした100m以上の建築物がまさかこんなところにもという具合に建て続けられた。景観は破壊され、ただ上を見るのみである。第2章ロンドンの超高層ビル論争では、歴史的建造物や街並みを保護する考え方が社会に広く浸透したことや、高層住居が子供の健全な心身の成長に不適切であるとの認識のもとに高層・超高層ビルに対する拒絶反応が一般化した。そして、ロンドンの人々の共通認識では「超高層ビルの数の多さは、その都市のあるいはその国の政治的経済的未成熟さの証」となっている。第3章都市再生「バルセロナ・モデル」の検証では、生活の質の向上のために建造物を減らし空間を生かすデザインが主流になっていった。第4章「スマートな成長」めざすアメリカでは、「スマートに成長せる Growing Smart」のコンセプトを下に全米で土地利用計画・規制が作成されている。第5章スマートグロースの論点—オレゴン州ポートランドからは直接民主主義制度が採用されている。第6章持続可能な都市をめざして—コミュニティに根差した開発の構想は都市再開発（再生）＝高層ではなく「品格ある都市」の創造を促す。（齊藤全彦）



〒150-0031
東京都渋谷区桜丘町 14-5-502
TEL : 03(3780)3814
FAX : 03(6379)6681
E-mail : info@keikan-forum.com
URL : <https://www.keikan-forum.org>

